資料２-３

令和8年度第2回八重山地区医療提供体制協議会 協議資料

八重山医療圏における持続可能な医療提供体制の確立に向けて

石垣島徳洲会病院 & かりゆし病院 統合・病床集約計画案

～石垣島徳洲会病院建替えによる病床集約へのご賛同願い～

医療法人徳洲会 石垣島徳洲会病院 / 医療法人上善会 かりゆし病院

【日時】 令和8年（2026年）11月13日

【協議対象】 八重山地区医療提供体制協議会 各位

医療法人徳洲会・医療法人上善会は2027年4月からの法人合併に向け準備を進めており、今後2病院の統合と病床集約により八重山圏域の医療・介護受け皿不足を根本解決する

1. 両院の課題を同時解消
病床限界 & 老朽化の克服

・徳洲会：常時満床による病床拡張ニーズ

・かりゆし：建物老朽化と建築費高騰での単独建替え限界

・徳洲会グループとの合併によるスケールメリットで、資金・資材・調達の課題を一挙突破。

2. 地域医療構想への適合
200床新病院 ＋ 108床介護棟

・新病院棟（地上5階・1.3万㎡）：200床（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）を集約

・既存施設改修：介護医療院48床＋老健60床（計108床）へ再編

・救急からリハビリ、介護・在宅復帰まで一気通貫。

3. 地域病院との共存共栄
八重山病院との機能分担

・県立八重山病院の高度急性期・救急負荷を軽減

・急増する高齢者救急を島内で確実に受け止め

・有床診療所や県立八重山病院からの下り搬送・リハビリの受け皿として圏域全体に貢献。

75歳以上が1.77倍に急増する八重山で、病床利用率99.5%と救急受入限界が常態化している

75歳以上人口の急増
1.77倍
（2020年→2050年：要介護者1.67倍）
総人口横ばいに対し高齢救急需要が激増

直近3ヶ月平均 病床利用率
99.5%
（2026年7月～9月データ：許可162床に対し161人）
実質100%満床・レッドゾーン突入

救急搬送の受入入院率
76.1%
（直近平均：最高79%に達する逼迫度）
病床不足による救急受入制限リスクが直前

【徳洲会＋かりゆし 2病院合算 稼働データ】

期間（実績）	平均入院	利用率	評価
2025年04月～06月	149～152人	**92.0～94.0%**	高稼働継続
2025年07月～09月	151～154人	**92.5～95.0%**	高稼働継続
2025年10月～12月	147～150人	**90.2～92.5%**	高稼働安定
2026年01月～06月	145～149人	**90.0～92.1%**	高水準維持
2026年07月～09月	**159～161人**	**98.3～99.5%**	**満床・限界**

単独突破の限界を医療法人徳洲会のスケールメリットで克服し老朽化と病床不足を同時解消する

【石垣島徳洲会病院（52床）の課題】

・病床利用率常時90～100%での運用限界
・救急患者・急変受入のための病床拡張（増床）が急務
・敷地拡張（約4,600坪取得）を完了も単独機能に限界

【かりゆし病院（110床）の課題】

・築年数経過に伴う既存建物の深刻な老朽化
・新築移転を目指すも、近年の「建築資材・人件費高騰」が直撃
・単独法人での建て替え・設備投資が極めて困難な局面

→

両病院の合併・統合による解決

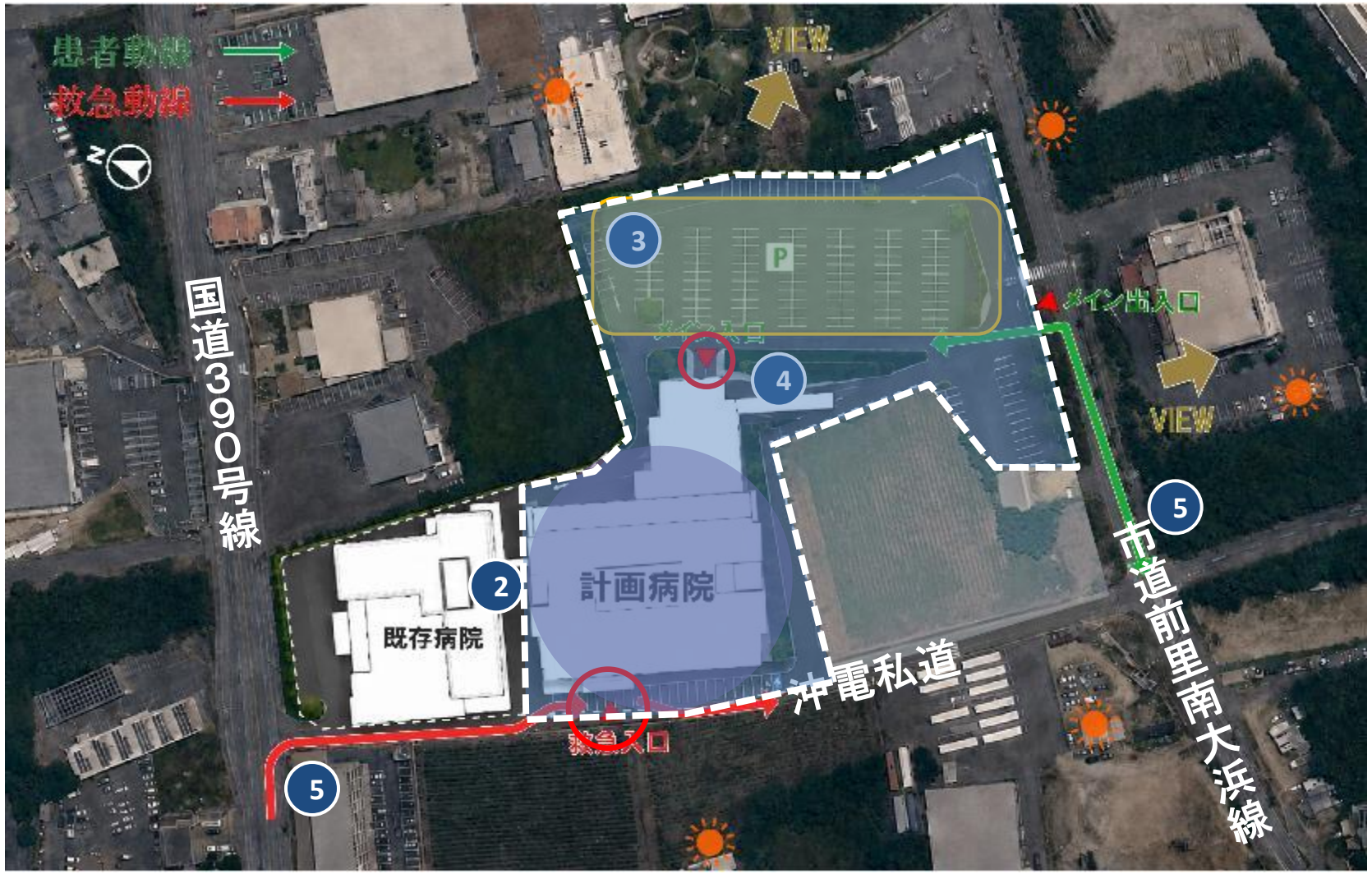
■ スケールメリットの活用
全国グループの調達力・建築ノウハウで建設コストを最適化。高騰下でも確実な新病院建設を実現。

■ 資金力と事業継続性の確保
強固な経営基盤による全額資金調達と長期的な離島医療事業の完全継続を保障。

■ 医療人材・専門医ネットワーク
全国90超の病院ネットワークから医師・看護師・コメディカル等の応援・派遣体制を構築。

■ 医療と介護の一元再編
両法人のノウハウを融合し、200床新病院＋108床介護施設の一体型医療拠点を構築。

配置計画｜敷地・建物配置と動線の考え方



1 敷地

既存病院の敷地＋今回追加取得した敷地（白破線＝計画範囲）

2 建物配置

既存病院の南側に計画病院を配置

3 駐車場

東側に集約配置（P）。
来院車は南からアプローチ

4 メイン入口

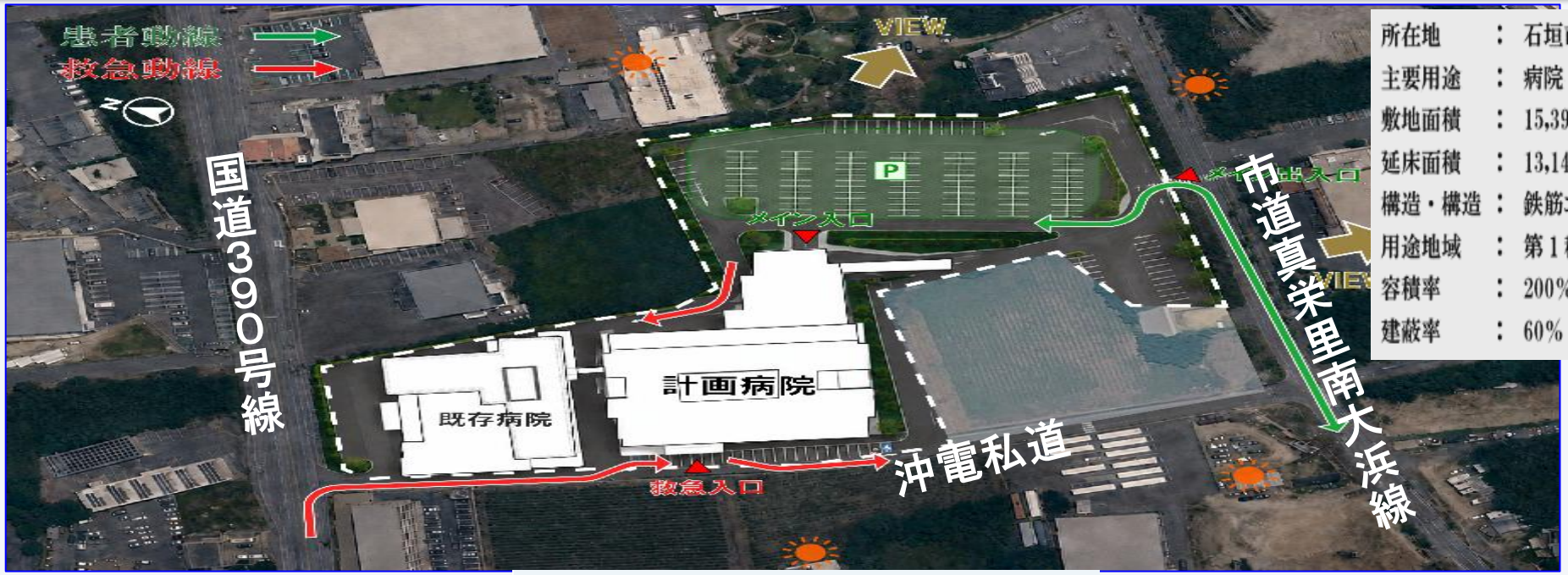
計画病院の東面（駐車場側）
救急入口は、西側（私道側）

5 動線

患者動線（緑）と救急動線（赤）を分離

患者動線　**救急動線**　白破線＝計画敷地範囲　／　番号は右の項目に対応

建物の概要

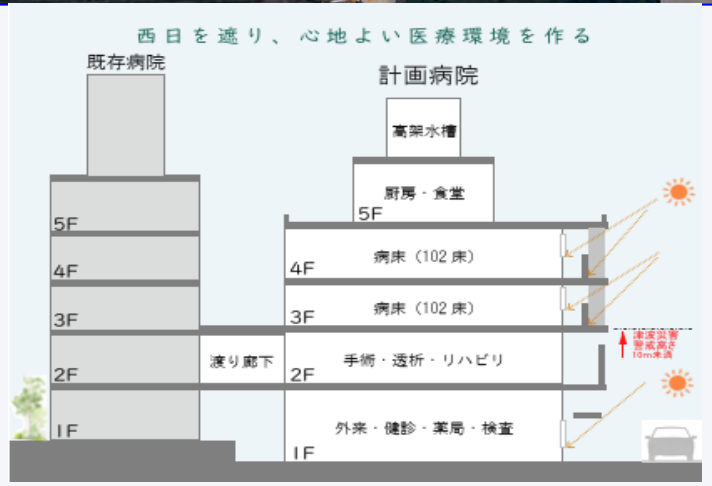


所在地	：	石垣市大浜 446-1 他
主要用途	：	病院（204 床）
敷地面積	：	15,392.00 ㎡（4,656.08 坪）※既存除く
延床面積	：	13,144.26 ㎡（3,976.14 坪）※既存除く
構造・構造	：	鉄筋コンクリート造・地上 5 階建て
用途地域	：	第 1 種住居地域・第 2 種住居地域
容積率	：	200%
建蔽率	：	60%

介護施設

石垣島介護医療院　48床
老健聖紫花の杜　60床
計　108床

⇒ 介護医療院108床
※現施設を改修



新病院

石垣島病院　52床
かりゆし病院　110床
計　162床

⇒ 新病院　200床
約13,144㎡（3976坪）
地上5F

新たに建築する増築棟を病院機能とし、既存病院を介護棟として改修を行う。

200床規模の新病院と108床の介護施設を一体整備し約300床規模の地域最大級施設を創出する

【新病院棟（新築）】 200床 （地上5階・13,100㎡）

- **1階：外来・救急**
  総合外来、薬局、健診（100名/日）、放射線、内視鏡、救急室
- **2階：先進高度医療**
  手術室2室（ダヴィンチ導入対応大部屋含む）、HCU 8床、透析室30床、リハビリ室200㎡
- **3階：病棟フロア**
  病棟100床（急性期・地域包括ケア）
- **4階：病棟フロア**
  病棟100床（回復期リハ・慢性期・機能別編成）
- **5階：厨房・防災拠点**
  厨房、食堂、職員更衣室、電気室・非常用発電機・備蓄倉庫

【介護棟（既存改修）】 108床 （渡り廊下で直結）

■ 介護医療院 ： 48床
医療依存度の高い要介護高齢者の長期全人的ケアと生活支援を担保。

■ 介護老人保健施設「聖紫花の杜」 ： 60床
在宅復帰に向けたリハビリテーションと看護・介護ケアを提供。

■ 渡り廊下による直接接続のメリット
2階・3階・5階等の渡り廊下により病院棟と一体運用。
・入所者の急変時、新病院救急・HCUへ即座に搬送可能
・退院患者のスムーズな介護移行と在宅復帰を全面支援。

■ 敷地全体スケール
既存敷地(1,158坪)＋拡張地(4,656坪) 合計約5,814坪（19,222㎡）に駐車場約250台確保。

開院時は162床でスタート

高度急性期から回復期・慢性期・介護までを一貫提供し県立八重山病院との役割分担を明確化する

【地域医療構想における病床機能別役割分担と増床の妥当性】

病床機能区分	八重山圏域の課題	県立八重山病院	仮)石垣島メディカルセンター	地域医療への貢献効果
高度急性期	充足率30%（大幅不足） 高度集中治療の強化必要	三次救急・高度手術 高度急性期（258床）	**HCU 新設** **手術室2室（ダヴィンチ対応）**	八重山病院のICU負荷軽減 急変時の高度受け皿確保
急性期・高齢者救急	八重山病院に過度集中 高齢急変の分散受入必須	基幹高度急性期 専門救急・急性期医療	**急性期受入強化** **一般病床＋救急対応**	八重山病院のオーバーフロー防止 救急断りゼロへの貢献
包括期・慢性期	充足率49%（極めて不足） リハビリ受け皿欠如	早期退院推進・急性期特化 （包括期機能あり）	**地域包括ケア・回復期リハ** **リハ室200㎡確保** **療養病棟**	急性期後のスムーズな受入 在宅復帰率の大幅向上
介護医療	高齢化に伴い需要急増 長期療養先の確保	急性期中心のため 長期入院対応が困難	**介護医療院 48床** **老健 60床（計108床）**	社会的入院の解消 医療と介護のシームレス連携

最上階へのインフラ集約とHCU設置により災害時も医療を止めない離島拠点をつくる

■ 津波・水害対策（最上位の安全性）

・津波災害警戒区域（警戒高さ10m未満）に対応
・電気室、高架水槽、非常用発電機、備蓄倉庫を【最上階（5階）】に集約
・病棟フロア（3階以上）を地盤面から10m以上に配置し水没回避。

■ 災害医療＆非常用インフラ

・受水槽・非常用発電機容量を必要日数分しっかり確保
・総合待合室に医療ガス配管を設置（災害時トリアージ・多数傷病者対応）
・感染症対応・発熱外来動線の完全分離。

■ 高度医療設備・環境対策

・手術室2室：整形外科およびダヴィンチ（手術支援ロボット）導入を見据えた大型化
・HCU：2階手術室隣接配置（専用ナースステーション完備）
・沖縄特有の高温多湿対策：外気処理空調機を導入。

■ 患者・職員動線と快適性

・一般患者動線と救急動線を完全分離（駐車場250台）
・透析室30床・健診センター（100名/日）を2階・1階に最適配置
・5階に眺望の良い食堂・厨房・職員更衣室を一体整備。

2026年11月本協議会にて合意後から2029年開院まで着実に進む実行ロードマップを推進する

フェーズ 1
2026年10月～2027年4月

基本計画・基本設計

・設計キックオフ（10/19）
・樹木伐採・GPS/ドローン測量
・11/5・6 現場調査・ヒアリング
・本協議会での病床合意（11/13）

フェーズ 2
2027年4月～2027年10月

実施設計・開発許可

・詳細構造・設備設計の確定
・沖縄県・石垣市 開発許認可
・建築確認申請・条例協議
・施工業者見積り・選定

フェーズ 3
2027年10月～2029年09月

建築工事・改修工事

・新病院棟 建設工事（20ヶ月）
・医療機器/システム搬入/検証
・既存施設 改修工事準備
・職員トレーニング・動線リハーサル

フェーズ 4
2029年10月 / 12月

新病院 開院・移転

・（仮称）石垣島メディカルセンター開院
・新病院162床 稼働開始

既存病院改修後
・介護棟108床（介護医療院・老健）運用開始
・地域医療・介護の統合運用スタート

（仮称） 石垣島メディカルセンター 計画案

地域の歴史と先進医療を結ぶ、島の安心拠点

地域に根差した医療を受け継ぎ、
高度医療との連携によって島の未来を支える。




石垣島メディカルセンター

八重山に暮らす人々の生命と生活を守るため、そして地域医療の未来をともに築いていくため、本統合計画へのご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

【本協議会（八重山地区医療提供体制協議会）でご賛同いただきたい結びの要点】

1. 医療崩壊リスクの回避と救急受入体制の完全確保

常時満床のレッドゾーン脱却のため、許可病床枠の再編（200床規模の新病院＋108床介護棟）をご承認お願いいたします。

2. 医療と介護の途切れない統合モデルの確立

病床機能の分化と連携により、高度急性期から回復期リハビリ、慢性期、介護医療院・在宅復帰まで一貫した八重山モデルを築きます。

3. 地域医療機関との共存共栄と連携強化

県立八重山病院様をはじめ、圏域内のすべての医療機関・先生方と固い連携を結び、地域の医療資源を最大限生かします。

「生命だけは平等だ」という理念のもと、離島医療の未来をともに切り拓いていくため、石垣島徳洲会病院とかりゆし病院の統合による建替え（病床機能に変更なし)を本協議会としてご合意いただけますようお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました